

KYUSHU UNIVERSITY INSTITUTE for ASIAN and OCEANIAN STUDIES

九州大学 アジア・オセアニア研究教育機構



アジア・オセアニアから 世界を拓く

今、世界は多くの課題に直面している。
未来では、まだ誰も知らない課題が待っているかもしれない。
ここには、それらの困難を克服する希望がある。

今までの枠を超え
ともに手を取り合い
明るい未来へ進んでいこう。

歴史あるこの学び舎から
アジア・オセアニア、そして世界へ。
新たな挑戦が始まっている。



KYUSHU UNIVERSITY INSTITUTE
for ASIAN and OCEANIAN STUDIES

機構長挨拶

Greetings from the Director General



九州大学は、九州の玄関口、福岡に位置し、地理的・歴史的にアジアに近く、アジアに開かれた大学として、アジア・オセアニア地域を中心に、多くの優秀な留学生や研究者を受け入れ、国際社会で活躍できる人材を育成するとともに、当該地域でのネットワーク形成により、数多くの人的・知的資産を蓄積してきました。

2019年4月、これらを基に、アジア・オセアニア地域を対象に展開する実践的な研究教育活動の促進と、社会的課題の解決に全学で取り組むため、「アジア・オセアニア研究教育機構 Kyushu University Institute for Asian and Oceanian Studies (Q-AOS)」を創設しました。

今日生じている社会的課題の多くは、種々の要因が複雑に絡んでおり、特定の専門分野の知識、技術のみで解決することは困難です。例えば、2015年の国連サミットで採択された2030年に向けた持続可能でよりよい世界を目指すための国際目標である「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成には、気候変動、生物多様性の損失、貧困や格差、紛争や人権侵害等の多岐にわたる課題への取り組みが必要で、組織や専門分野の枠組みを超えた協働が不可欠です。

本学は、人文社会科学系、生命・自然科学系及び芸術工学系の幅広い総合知で社会的課題の解決に貢献することが可能であり、Q-AOSは、そのプラットフォームとして積極的に機能することが

期待されています。まずはアジア・オセアニア地域で、今日生じている課題への対応から始め、将来的に予想される社会的課題の発生抑制につなぐことができれば、サステナブルな社会の実現にも貢献できると考えます。

本学の留学生の約8割はアジア・オセアニア地域から受け入れており、多くの日本人学生もアジア・オセアニア地域への渡航や留学を経験しています。各地では元留学生、日本人ともに同窓生が活躍しています。これらの人材が、各地域の同窓生ネットワークの中心となり、このつながりを継承してくれるように、各国・地域で九州大学フォーラム等を開催しています。

Q-AOSでは、2024年度から現地の要求に応じて(オンデマンド)、現地機関との現地での協働(オンサイト)による活動を本格化させるため、海外実装を見据えた部門による活動も展開いたします。

今後とも、皆様からご支援の程、よろしくお願いいたします。

九州大学総長 / アジア・オセアニア研究教育機構長

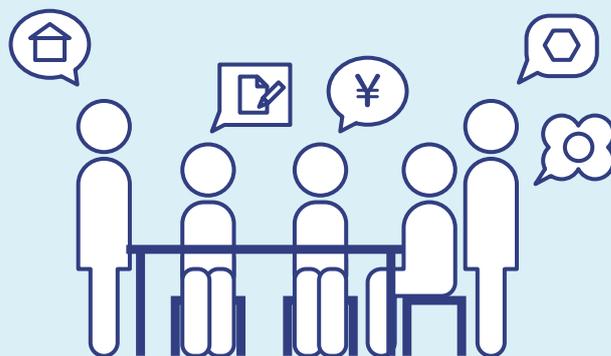
石橋 達朗

POINT

1 INTERDISCIPLINARY ACTION

学際的な活動を

全学の研究教育活動に横串をさす
「クラスター」と「モジュール」の組織構成で
異分野が様々に交じり 風通しの良い議論を



POINT

2 ON-SITE & ON-DEMAND

オンデマンド オンサイト

課題が生じている現地の要求に応じて(オンデマンド)
現地の機関との現地での協働によって(オンサイト)
課題の解決・軽減・発掘・予測

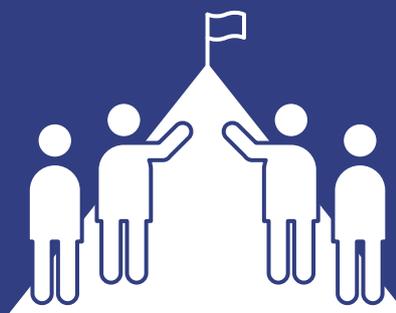


POINT

3 FUTURE SDGs

未来のSDGs

2030年までの達成目標であるSDGs
この目標を達成することはもちろん、Q-AOSはその先を見つめ
研究教育活動を進めていく



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

アジア・オセアニア研究教育機構とは / ABOUT Q-AOS

Q-AOS(キューエイオス)とは、**Kyushu University Institute for Asian and Oceanian Studies**の略称です。

MISSION

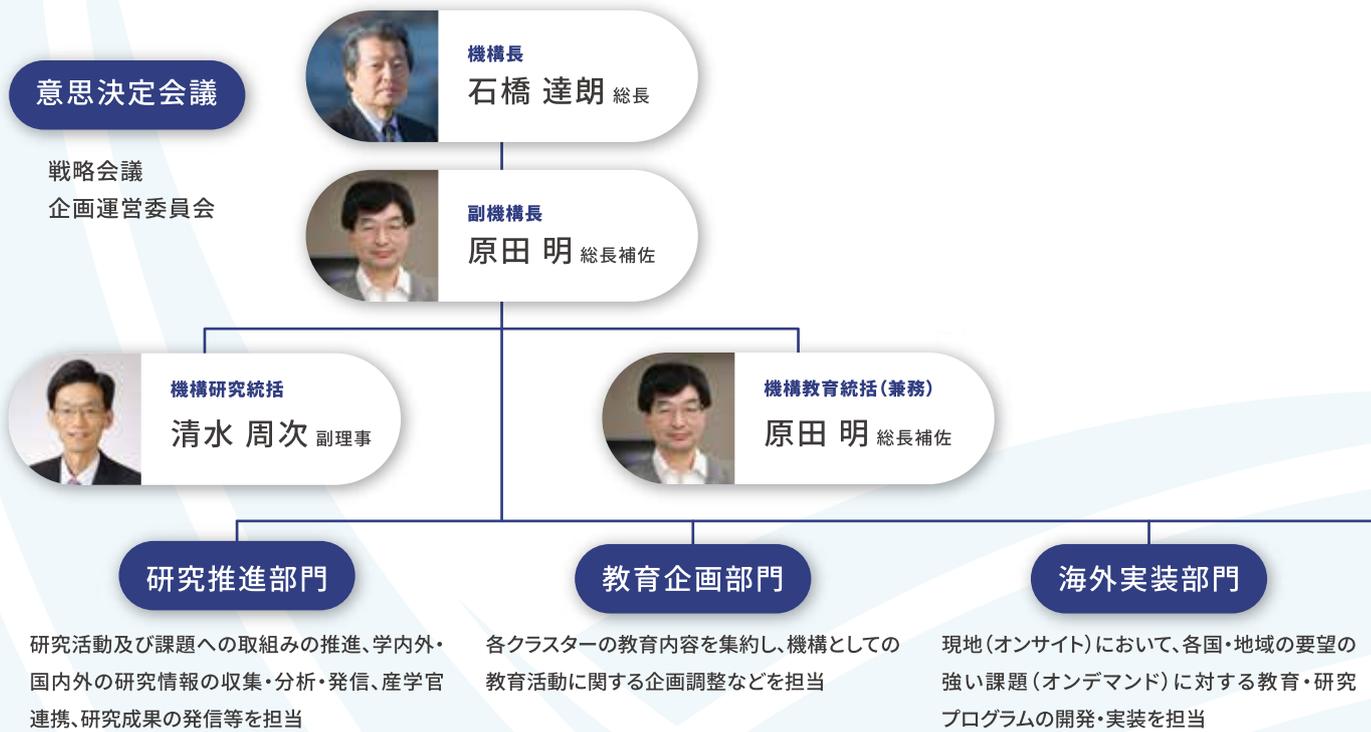
「アジアに開かれた大学」として、100年を超えて展開してきたアジア・オセアニア地域との交流と教育研究の集積を生かして、世界最高水準の独創的かつ学術的研究とイノベーションを創出します。

VISION

アジア・オセアニア地域で今日生じている社会的課題の解決と、将来生起することが予想される社会問題の発生抑制などに関する研究教育にオール九大で取り組み、SDGsとSDGsのその先に本質的な貢献をします。



組織図 / ORGANIZATION CHART



ディレクター



菊地 君与 教授

コーディネーター



横田 文彦 准教授



田中 俊徳 准教授



若林 真美 准教授



銭 琨 准教授



Kim
SCHUMACHER 准教授



里村 和歌子 准教授

学術研究員



Heloisa
SERATIUK FLORES



味志 優

GRASP
CONNECT
to the WORLD
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

FUTURE SDGS



.....
連携

学内の研究組織

.....
共同研究、教育

企業等、海外大学等
政府・自治体

クラスター

Q-AOSでは多面的なアプローチが必要な社会的課題に立ち向かうために、分野の垣根を越えて、複数のモジュールを有するクラスター単位での活動を行い、SDGsの目標を達成するよう尽力しています。

| 自然クラスター | 産業クラスター | 健康クラスター | 社会クラスター |
|--|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| クラスター長 中村 真子 教授 (農学研究院) | クラスター長 笠間 清伸 教授 (工学研究院) | クラスター長 濱瀬 健司 教授 (薬学研究院) | クラスター長 木村 拓也 教授 (人間環境学研究院) |
| 副クラスター長 田中 俊徳 准教授 | 副クラスター長 Kim SCHUMACHER 准教授 | 副クラスター長 横田 文彦 准教授 | 副クラスター長 錢 琨 准教授 |
| 学術研究員 Harsha PRAKASH (農学研究院) | 学術研究員 Lihang HU (工学研究院) | 学術研究員 Nuren ABEDIN (薬学研究院) | 学術研究員 陣田 内美 (人間環境学研究院) |
| モジュール群 | モジュール群 | モジュール群 | モジュール群 |
| 協力教員 | | | |

*1 クラスター:SDGsの17ゴールを念頭に、機構としての活動を展開するグループ。各クラスターには複数のモジュールが柔軟に集結し、連携・協働・融合した活動を行う。

*2 モジュール:具体的な課題の解決・発掘などに取り組む、様々な専門家が集まる研究者チーム。

*3 協力教員:本学において、アジア・オセアニア関連の研究を行っている教員が各部局から参加する。

社会的背景の把握・理解

企業/海外大学/政治・自治体との共同研究・教育

アジア・オセアニアの学びを世界全体へ

2030年までの国際目標

そして、その先へ

Nature Cluster

自然

クラスター長—中村真子教授

「生物多様性の喪失を止める」
というMISSIONを掲げ、次のモジュールを設置し、
研究活動を行っています。



持続的食肉生産



クラスター長・モジュール長
中村 真子 教授(農学研究院)

機能性天然素材開発



モジュール長
清水 邦義 准教授(農学研究院)

遺伝子資源管理・開発利用



モジュール長
土居 克実 教授(農学研究院)

水圏環境持続



モジュール長
渡部 哲史 准教授(比較社会文化研究院)

裁断古紙の農業利用



モジュール長
松元 賢 教授(熱帯農学研究センター)

Industry Cluster

産業

クラスター長—笠間清伸教授

「技術革新で世界を豊かにする」
というMISSIONを掲げ、次のモジュールを設置し、
研究活動を行っています。



技術革新で自然災害リスクに備える



クラスター長・モジュール長
笠間 清伸 教授
(工学研究院)

ビジネスとESG



副クラスター長・モジュール長
Kim SCHUMACHER 准教授
(アジア・オセアニア研究教育機構)

都市土地利用最適化



モジュール長
Prasanna DIVIGALPITIYA 准教授
(人間環境学研究院)

資源開発



モジュール長
島田 英樹 教授
(工学研究院)

アジア歴史都市持続開発



モジュール長
井上 朝雄 准教授
(芸術工学研究院)

ポータブル・ヘルス・クリニック(PHC)



モジュール長
中島 直樹 教授
(医学研究院)

持続的水圏食料生産



モジュール長
太田 耕平 教授
(農学研究院)

ヘイズ(煙害)と農林業



モジュール長
百村 帝彦 教授
(熱帯農学研究センター)

「全ての人に医療と健康をとどける」

というMISSIONを掲げ、次のモジュールを設置し、研究活動を行っています。



キララアミノ酸の探索



クラスター長・モジュール長
濱瀬 健司 教授
(薬学研究院)

ワンヘルス



副クラスター長・モジュール長
横田 文彦 准教授
(アジア・オセアニア研究教育機構)

遠隔医療



モジュール長
森山 智彦 准教授
(大学病院)

食腸育



モジュール長
中山 二郎 教授
(農学研究院)

満たされない医療ニーズ



モジュール長
戸高 浩司 教授
(大学病院)

健康・医療デザイン



モジュール長
秋田 直繁 准教授
(芸術工学研究院)

疾病予防と母子保健



モジュール長
安河内 友世 准教授
(歯学研究院)

エイジング



モジュール長
肥後 裕輝 教授
(留学生センター)

芸術による幸福



モジュール長
Charlène CLONTS 准教授
(人文科学研究院)

「誰もが生きやすい社会をつくる」

というMISSIONを掲げ、次のモジュールを設置し、研究活動を行っています。



接続・モビリティ・教育



クラスター長・モジュール長
木村 拓也 教授(人間環境学研究院)

レジリエンス・ジェンダー平等



モジュール長
里村 和歌子 准教授
(アジア・オセアニア研究教育機構)

地域の未来



モジュール長
藤岡 悠一郎 准教授(比較社会文化研究院)

政策のための科学



モジュール長
大賀 哲 准教授(法学研究院)

海峡圏SDGs研究



モジュール長
出水 薫 教授(法学研究院)

3ZEROとZ世代



モジュール長
Ashir AHMED 准教授(システム情報科学研究院)

Health Cluster
健康

クラスター長
濱瀬 健司 教授

Society Cluster
社会

クラスター長
木村 拓也 教授

機構の活動紹介 / INTRODUCTION OF Q-AOS ACTIVITIES

Q-AOSでは学際的・融合的な研究教育活動を推進し、広く社会へ発信し続けるために、様々なイベント、セミナーやシンポジウムを企画しています。ここでは最新の情報を実績としてご紹介します。

Brown Bag Seminar (BBS)

「ブラウンバッグセミナー（BBS）」は、本学の専門的な知見や最新の研究成果をSDGs等も踏まえながら分かりやすく発信し、国際交流や異分野融合のきっかけの場を提供することを目的として、毎週水曜のランチタイムに、全世界の方を対象としてオンラインで開催しています。

BBSは、完全日英2か国語対応（同時通訳あり / 資料等も2か国語対応）で実施していますので、講演内容に興味のある方であればどなたでもご参加いただけます。

これまで、本学の幅広い分野の研究者はもちろん、学外有識者、優秀な大学院生も含め多様な登壇者が講演を行うことで異分野・学際融合が促進され、Q-AOS ひいては九州大学全体における研究教育活動の活性化に貢献しています。

一部はYouTubeにて後日配信していますので、惜しくも聞き逃された方はご利用ください。

※「ブラウンバッグセミナー」とは…ブラウンバッグ(米国でランチを入れる茶色い袋を指す)を持ち寄り、食事を取りながらどなたでも気軽に参加いただけるセミナーのこと



Asia Week

九州大学では、その地理的優位性から、アジアに関する膨大な研究教育の蓄積と実績を有しています。これら研究教育の実績や新たな展開の可能性を国内外へ発信し、多くの方に九州大学を知っていただくと共に、海外大学等との連携強化、さらには新たな国際

交流・国際連携体制の構築促進を図ることを目的とし、2020年から「Asia Week」を開催しています。

毎年11月上旬に1週間、各国・地域に特化したイベントや、Q-AOSのクラスターやモジュール、アジア・オセアニア各国の留学生らが企画するセミナー等を実施しています。

KYUDAI NOW

九州大学の様々な領域から第一線の若手研究者等を選抜し、同窓生・留学生を多く有する国々を中心に訪問する「KYUDAI NOW」を開催しています。この活動は、現地の同窓生、大学・政府・産業界から参加者を募り、本学の最新の研究を広く紹介するとともに人的ネットワークの強化を図ることを目的として2022年度から実施しています。

これまで、インドネシア、タイ、ベトナム、マレーシア、バングラデシュ、オーストラリア等を訪れ、現地で働く元留学生の同窓生や日本人の同窓生、福岡県人会等多くの参加者と共に、日本と各国の交流を深め、さらには現地の研究教育機関や学内研究者間の交流促進等、様々な角度からの交流拡大に貢献しました。今後もアジア・オセアニア各国における幅広い展開を計画しています。



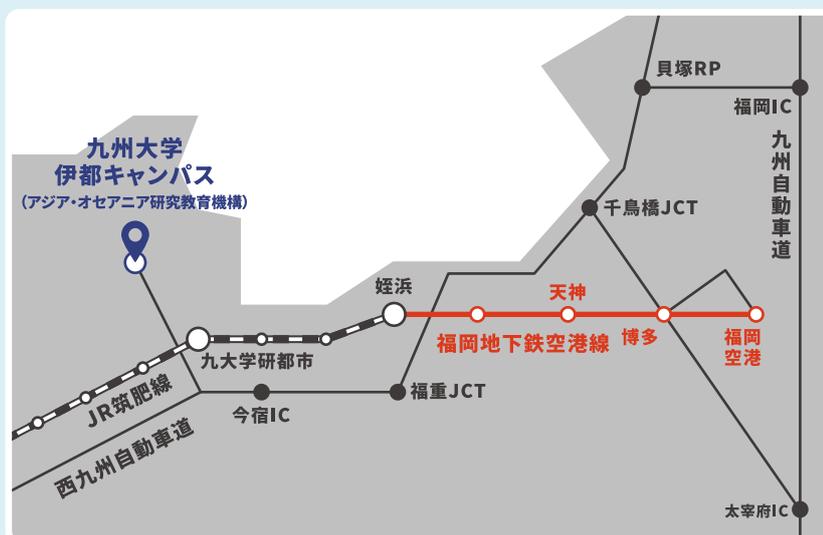
九州大学 アジア・オセアニア研究教育機構

〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡744番地

TEL 092-802-2605

E-MAIL iq-kenkyu@jimu.kyushu-u.ac.jp

WEB <http://q-aos.kyushu-u.ac.jp/>



アクセス①

地下鉄空港線「姪浜駅」

→JR筑肥線へ乗換「九大学研都市駅」

→昭和バス「伊都キャンパス」

※地下鉄空港線で西唐津行き、筑前前原行きに乗車した場合は、姪浜駅での乗り換えは不要。

アクセス②

地下鉄空港線「博多駅」

→西鉄バス「伊都キャンパス」



KYUSHU UNIVERSITY INSTITUTE
for ASIAN and OCEANIAN STUDIES
九州大学 アジア・オセアニア研究教育機構



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

2025年4月1日 発行

